



柏崎市立博物館 学芸員

角田 ゆりあ

KAKUDA YURIA

1988年 神奈川県出身
2019年 柏崎市へ移住

1月中旬、市内笠島の笠島ふれあいセンターで開催された「かさしま歴史講座」に参加した。講師を務めたのは柏崎市立博物館学芸員の角田ゆりあさん。柏崎市にクジラが漂着した記録や市内に残るクジラの墓、近海で見られるイルカや生態などについて話をした。海で漁をする人たちにとってイルカやクジラは昔から身近な存在、地域の人たちからは多くの質問が出され話題は尽きなかった。

角田さんは神奈川県出身。昨年4月に柏崎市立博物館の学芸員として採用され、愛媛県から1ターンで柏崎市に移住してから、もうすぐ1年になる。

大学時代は農学部で外来生物であるハリネズミの生態の研究。三重大学大学院では伊豆諸島の御蔵島周辺で生息する野生のミナミハンドウイルカの調査・研究を行っていた。御蔵島では観光船に協力してもらい、船上からの調査やシュノーケリングでイルカに近づき、海中からの撮影や調査など、様々な研究を行ってきたというから、イルカについて詳しい話が聞けるというのは私達にとっても貴重な経験だ。

卒業後は、高知県の国立公園で環境省の非常勤職員として勤務。現地調査や自然観察会の開催、サンゴの保全活動などを行っていた。その後は愛媛県の博物館で企画や普及の仕事、プラネタリウムなども担当してきたという。

柏崎は、角田さんにとって初めての日本海側の勤務地。自然や動物の研究・調査を行ってきた経験から、海も山もある自然豊かな柏崎はとても魅力的な地域。自分の経験したことを仕事に生かしていきたいと考えている。

現在、角田さんが担当するのは大きく分けて鯨類など哺乳類をはじめとした自然科学系全般とプラネタリウム。博物館には様々な仕事があるため、一つひとつ丁寧に向き合うことを心掛けている。

小学4年～6年生を対象とした探検教室では、動物の足あとを使って動物当てをしたり、動物の角や標本を使った講座を行った。

また、博物館で冷凍保存されていたツキノワグマやニホンジカを頭骨標本として発注。通常は触れることができない標本を、触れる標本として利用したいと考えている。

「子供から大人まで、もっと博物館を楽しんでもらえるよう工夫を凝らし、何度も利用してもらえる場所にしたい。質問があれば遠慮せずに声を掛けてほしい」と角田さんは笑顔で話す。春の企画展では元素や周期表を使った展示を考えているそうだ。

リニューアルした博物館をまだご覧になっていない方はぜひ。見たという方はぜひもう一度、地域を改めて知るための一助となる博物館に足を運び、地元の魅力を再発見していただければと思う。

お問い合わせ

柏崎市立博物館

柏崎市緑町8-35

TEL 0257-22-0567

営時 9:00～17:00(最終入館は16:00)

休館日 月曜(祝日の場合は翌日)

入館料 常設展示／一般300円 小中学生無料
プラネタリウム／一般200円 小中学生100円
常設・プラネタリウム共通／一般400円

